

愛育病院セミオープンシステム 分娩登録のご案内

ご希望のシステムのタイプに○をしてください。

セミオープン形式	愛育病院での内容
①愛育病院分娩登録	分娩登録* 入院案内・マタニティノート等の配布 妊婦健診は行いません
②愛育病院ハイリスク 分娩登録	分娩登録* 入院案内・マタニティノート等の配布 妊婦健診(医師)
③里帰り分娩登録	里帰り登録のみ*

*登録料3,000円

25

愛育病院における オープン・セミオープンシステムの実績

2006年	分娩数
オープンシステム	104件(6.3%)
セミオープンシステム	92件(5.6%)
	196件(11.8%)

2006年 年間総分娩数: 1650件

26

(セミ)オープンシステムのメリット

1. 母児の安全性向上
人材、設備の有効活用
2. 近くの診療所で妊婦健診が受けられる
3. 産科医のストレス軽減
ダブルチェックによるリスクの減少
4. オープン病院の外来業務軽減、マンパワー補強
5. 登録医の生涯研修となる
6. 若手医師、高齢医師の産科医療への参加促進
7. 医療連携システムの整備促進
8. 周産期の診療レベルの向上と標準化

27

(セミ)オープンシステム実施のための留意点

1. 妊婦への説明(健診と分娩で施設が変わる不安の解消)
2. 妊婦の健診施設、分娩施設に関する選択肢を確保する
3. 施設の総分娩数を定めておく(勤務医の過重労働予防)
4. 診療方針の協議、責任体制(医師責任保険加入)を明確にする
5. 収入の適正配分
6. 登録医は自施設の外来診療との調整が必要
7. 妊娠管理の標準化(血液検査、超音波検査等)
8. 妊婦情報の共有化

28

産科オープンシステムモデル事業の意義

- 総論:** 機能分担による分娩の安全性向上
産科医療者のQOLの改善
- 短期的効果:** 産科医師数の減少に対応
- 中長期的効果:** 地域周産期医療の標準化・向上
若手産科医の増加
- 課題:** オープン病院の産科勤務医の待遇改善
登録診療所が経営可能な診療報酬
妊婦情報のIT化(共有化)

29

